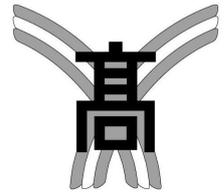


君の授業に乾杯。



【せっかくの「めあて」。ぜひ板書してください。】

教員対象アンケートへのご協力ありがとうございました。結果は、数回にわたってAL通信上で報告いたします。今回は「めあての提示」の項目についてです。

問：授業開始時に、その時間のめあてや目標を生徒に提示していますか。

1. ほぼ毎時間、意識して提示している。	57.9%
2. 毎時間とはいえないが、提示することも多い。	26.3%
3. 単元ごとなど、ある程度まとまりをもった時間の目標として提示することはある。	8.8%
4. 特に意識して提示してはいない。	7.0%

これまで、「授業の始めにめあての提示」「授業の終わりに振り返り」を授業の型として取組を進めてきました。科目や単元の特性として毎時間のめあてを設定するのが難しい場合もあると思いますが、おおむね6割の先生が「ほぼ毎時間」提示していると回答されました。まだ伸びしろはありますが、意識して取り組んでいただいていることが表れた数字です。そこで委員会で一步踏み込んで検討したところ、次の質問について意見が出ました。

問：めあてや目標を提示している場合、どのような方法で行っていますか。(複数回答可)

1. 口頭で提示している。	36.4%
2. 板書で提示している。	40.0%
3. プリントなどで提示している。	17.3%
4. その他の方法で提示している。	2.7%

*パワーポイントなど

めあての提示の意義は、その時間を通じて身につけるべき力を明確にすることと、それを生徒自身に意識させることです。「何が分かればいいのか、どのようなことができるようになるか」を意識させることは、分かったふりをさせない、そして分からないときにはそのことが素直に言えるような、安心・安全の雰囲気をつくる上でも重要です。

ですから、口頭で「今日は〇〇をします」と伝えるだけではなく、一時間中ずっと見えるように板書しておくことで、「めあての提示」がより有効に機能するのではないかと思います。

また、めあては「〇〇を学ぶ」とか「〇〇を理解する」ではなく、「〇〇ができるようになる」のような、達成度合いが体感できる表現の方が効果的です。振り返りの時に板書してあるめあてに立ち返り、それが達成できたかが自分で理解できること。めあてと振り返りのつながりとはそういうことだと思います。

せっかくのめあてです。提示している方法とその表現について、見直していただければと思います。

